



植村 敦

・長雨被害による農家支援について
・教育環境の充実について

◎今年も酪農資材の高騰に加えて、天候不順による牧草収穫の遅れなど大変な苦勞をしているが、町として農家支援が必要ではないか。

町長 ▶ 今年の長雨被害による酪農経営の影響や昨今の物価高騰など厳しい酪農情勢を踏まえ、農協と町で協力し、農家から情報収集し対策を協議し、効果的な経営支援策を講ずるべきと考えている。

◎米を含む給食材料費が高騰している中、学校給食センターの運営に支障が出ていないか。

教育長 ▶ 昨今の物価高騰で、センターの運営上少なからず影響はあるが、栄養教諭や給食センター職員が、食材の選定や調理の工夫をしながら、栄養バランスも考慮し、児童生徒に安定的な給食の提供を行っている。◎この物価高騰が続くので

あれば、次年度の北海道学校給食会などとの契約や食材購入に影響が懸念されるが。

教育長 ▶ 来年度の給食費は、未だ解らない状態だが、保護者の負担が増えることがないように対応していく。

◎最近、道内の市町村でも給食費の無償化が進んでいるが、幌延町でも学校給食費の無償化を検討してはどうか。

教育長 ▶ 道内で給食費を無償化している自治体は、昨年度までで全体の30・1%。給食費を無償化することによるメリット・デメリットが

考えられるが、教育委員会としては、食の大切さや食への感謝を子供達や保護者にも認識してもらい、牛乳代以外の無償化には、今のところ取り組まない。

◎少子化対策の観点からも、近隣町村の動向に合わせて

いくべきではないか。

教育長 ▶ 今、本当に転換期に入っていると思われるので、国や道の動向を注視しながら、検討していきたいと考えている。

◎現在、行われている地域おこし協力隊制度による学習支援は、大変意義のある活動だと思う。協力隊員の任期が満了後、どのように継続していくのか。

教育長 ▶ 来年度、委嘱の任期が終了するので、協力隊員には、任期終了後も、引き続き、本町で子供たちの学習支援をしていただくことで話を進めていきたい。

◎この地域おこし協力隊による学習支援は、学校の部活動の支援なども可能か。

教育長 ▶ 教職員の働き方改革が進んでいる中、休日の部活動の地域移行が推奨されている。地域おこし協力隊による部活動支援を実施している自治体もあるので調査検討していきたい。

教育委員会として、今後、町全体の隊員の配置バランスや財政面を考慮しながら検討していきたい。



深澤 博 幸

・ふるさとの森（キャンプ場）の利用とマナー・管理について
・斎場の玄関前のスロープについて

◎キャンプ場の設置目的と利用者数は。

町長 ▶ この公園は、農林水産業が地域林業の振興等を目的に、第二次林業構造改革事業を活用し、昭和55年に着工、60年に完成。改修や撤去等を行いつつ、地域の公園として利用。

近年、暗渠排水の整備、バンガロー改修、トイレ水洗化などを行い、町民、地域内外の皆様には休養、休息の場として、賑わい創出等による地域活性化に資することを目的の施設と認識。

◎利用料、管理費の内訳は。

町長 ▶ 経費節減から管理人を常駐させていないため、キャンプ場全体の人数は把握していないが、バンガローの利用者は、令和5年度115組。令和6年8月末まで98組。

近年の集客数は増加傾向にある。管理費は、令和4

年度、利用料金収入42万7千円、支出2百38万4千円で、トイレ・バンガロー清掃委託料98万7千円。令和5年度、収入53万2千円。支出2百82万3千円。草刈作業・遊具点検等1百24万1千円。トイレ・バンガロー清掃委託料1百3万3千円。収入の割合は、両年度とも17・18%程度。

◎苦情・マナー違反等管理者として把握しているのか。

町長 ▶ キャンプブーム等の影響による利用者の増加に伴い、ルールやマナー違反が増加傾向にあり、周辺区域内で不法投棄されている情報があり、利用者へゴミの持ち帰り、投棄を禁じる看板を設置し、対策を講じ、担当職員の声掛けを行ない、今後、どのような対策が効果的であるか検討したい。

◎斎場の玄関前について、令和5年3月予算委員会で